

どをしていってもらおう。すると子どもの発達を発見する姿勢、生身の人間と接する責任感が生まれ、一つの現象に含まれる複数のストーリーへの気づきが身についていく。研究のみならず実践に貢献する質的心理学の姿だ。知識は人だけでなく、社会に蓄積する。子どもを見て現象を捉える視点は、過去や資質で決定されるものではなく、教育可能だと考えている。

質的心理教育をめぐるいくつかの問題

田中 共子

4年制大学の学部において、心理専攻の学生の実習や研究指導に、質的心理学の教えを取り入れた経験から、その効果と教育上の課題をまとめてみたい。カリキュラムでは、学年が進行するに従って研究の自由度が増す仕組みになっていて、高学年では学生に研究主題を自由に見出してもらおう。そのテーマは多岐にわたる。学生には発見の面白さ、現実的な出来事から心理学を掘り起こす知的刺激、具体的な問題設定などが魅力で、高い自我関与が見られる。一方で、先行研究と対応させて理論レベルを引き上げることは、学部生の知識レベルでは難しい面がある。データやレポートの不定形さや、高度な文章力と不断の工夫の必要性などから、完成度を上げるのも容易でない。発見的営みの意義や研究手法の広範な理解という観点からは、是非教育に取り入れたいが、現実には3側面の問題が考えられる。それは環境（講座設定、スタッフ、カリキュラム）、教育（教授内容、教育方法、個別学生指導）、研究（論文の完成度、進学志望者の研究展望）だと思う。

指定討論1

村本由紀子

質的研究の実践が、すなわち質的教育そのものになる。学生の追体験をしつつ指導者はアドバイスし、彼らが見つけかかっている種を一緒に育てていく。質的研究から学生に分かって欲しいことは、「生き生き動き回る大切さ」だ。これは話題提供者が、多角的視点、柔軟な視点、高い自由度などの表現で言おうとしたことと重なる。テストして確認する行為や知識の獲得という学習スタイルに慣れている学生に、見つけ出すことや動くことに慣れてもらいたい。自分が動くこと自体がデータになる、面白い世界だ。量的データの採取だけに慣れていくと、定まったことをこなせばよいと思いがちだが、動くデータを理解することが重要だ。教育課題は2点あろう。1つはとってきた現場の記述に、心理学の研究としてどういう価値があるか、理論をどう見つけてもらうか。理論の当てはめだけでなく、基礎理論を疑って、当てはまらない事例を探すのもよい。2つ目は、ローカリティ、

インターローカリティ、ユニバーサリティをどう考えるかで、抽象度をいかに捉えていくかだ。

指定討論2

箕浦 康子

質的研究は随分広がってきた。大学院を中心に質的研究を指導してきたが、学生は「問を立てるとものの見え方が変わってくる」ことを実感するようだ。例えば授業で、子どもらが公園で遊ぶビデオを見せて、グループ討論させてからもう一度見せると、いろいろ見えてくると言う。いくつか考えるべき点がある。「アイコンタクトを数えてみたら」などの助言は、どの段階ですか。現場に沿った問いから、概念的な問に移り変わる「問いの変遷」を、どう指導するか。卒論生単独ではできないと思う。現場という素材を、研究者という料理人が、どういう包丁、つまり概念ツールを用いて料理するかが問われている。フィールドワークの方法論の指導とは別に、「概念ツール」をどう教えるか。分析に耐えるフィールドノーツをどう書かせるか。集中講義形式で教えるときは、前半にフィールドノーツの作り方を教えて分析を課し、1ヵ月以上開けて後半にノートを持参させて再分析させる。心理学的テーマでないダメという制約をせず、質的「心理学」にこだわらない方がむしろよいようだ。

討論

司会 重要な論点、得意な視点について反応を。

伊藤 「動き」が大事という指摘に共感する。我々の書籍の「動きながら識る…」というタイトルには、まさに相手との相互作用の中で捉えるという姿勢を込めた。現象記述にとどまらずに「学問」をするには、既存知識の理解にとどまらず、理論の立ち上げを試みていく必要がある。例えばたまたま会った人の話をまとめるだけでなく、その話の位置づけを把握すべき。自分とも相手とも対話が大事で、その中から何を構築していけるか、学生と一緒に考えながら作っていく。「動きながら…」の11章は研究の評価についての章だ。自分は信頼性や妥当性の観点もさることながら、格闘して書いているどうかを重視する。

能智 基礎理論を当てはめてしまうと、学生の持っていた当初の勢いが失われる、という現象に自分も出会う。学生には、自分が一番面白いと思うことを見つけて生かすよう指導している。論文の紹介などはするが、学生が迷ったら理論は脇に置いて、出発点に戻るよう助言する。学生は書き上げると一皮むけるという指摘も、同感だ。半期の授業だとレポートを返すだけだが、卒論なら何度も話し合う。問いを変えていくのが大事。使える言葉に